

令和元年 4 月～

プロヴォ・イザベルさん

無理をせずに わたしらしくいられる場所



大船渡との出会い

大船渡と初めて出会ったのは、震災後ボランティアで訪れたときです。当時私は東京で働いていました。関東でも混乱する中、テレビで映し出される悲しい状況に、「日本で暮らすものとして何かしらの力になりたい」とボランティア団体の All Hands に入ったことがきっかけです。初めての大船渡の第一印象は「大船渡の人はなんて強くしなやかな人たちだろうか」ということ。

未曾有の災害にあって力強く前を向く人々、外から来た私たちを逆に気遣う精神に心を打たれました。

もちろん傷つき前を向くことができない方もいましたがそんな中でも私たちを温かく迎えてくれました。

当時のわたし

もともと日本が好きで、学校では日本語を選択し短期留学も日本を選びました。その後日本で働くことを選び、東京の職場では将来有望な優れた人材に対して「リーダーとしての会社におけるビジョンとパーソナルビジョンを考えさせる」プログラムの担当として従事していました。

そこでは「リーダーとしてどのような人」になりたいのかを考える（人間の軸がぶれない人は周囲に良い影響を与える）メソッドを行っていましたが、東日本大震災という大きな出来事、そしてボランティアで訪れた大船渡の人たちとの関わりの中で、ふと“あれ？自分はどうかのだろう”私はどのように暮らしたかったのかしら？と。考えてしまったのです。教える立場にあったものの自分は考えてなかったことに気づいたのです。

それから、自分の生き方を考えるようになりました。



All Hands に参加しボランティア活動をしました。
仲間ができ、大切な友人ができました。
毎日毎日みんなで語り合いました。

All Hands で訪れた大船渡

All Hands での活動は、復旧のお手伝いだけではなく、地域の方々のお手伝いや、みなさんのお話を聞く、寄り添うなどの交流まで多岐に渡りました。その中で私はたくさんの方々のお話を聞いてきました。

周りの人を気遣い、なかなか本音話すことができずにいた方も、よそ者だからこそ話せる心の内があったのだろうと思います。

幸い、厳しい職場経験から日本語はきっちりと勉強させられたこともあり、日常会話は全く問題ありませんし、よそからきたことがはっきりとわかるからか皆さん本音で付き合い親切にしてくれました。

みんなでひとつになって取り組む中で地域の方々のしなやかな強さや明るさ、思いやりあふれる温かさを感じました。本当に地域の方々と密な交流をしていたと思います。

つながりができた

震災後みなさんの熱い思いで開催された地域のお祭りや集まりなどにもお手伝いを通してかかわりました。

ボランティアだけではなく、大船渡の文化を通してコミュニティの中に入ったわけですが、大船渡の人が本当に大好きになっていました。

ほんの数カ月一緒にいただけなのに特別な時間を共有するうちに大船渡が特別な場所になり、「東京に帰ることに違和感」を感じるようになったのです。

「帰りたくない」「居場所はここだ」と。

All Hands の活動を通して大船渡で仲間と大切な友達ができ、家族のようなつながりを築いていました。

仲間や親しい友人ができると、みなさんに会いたくて、大船渡の自然にふれたくてボランティアが終わっても毎年数回高速バスを利用して大船渡へ通いました。

到着するたびに「あ～帰ってきた～！」と思いましたね。東京へ戻るときにはみなさんがバスを見送ってくれるのだけれど、ポロポロ涙がでるほど悲しかった。

東京に戻りたくなかった。



大船渡市盛町の灯ろう七夕まつりにて
盛町の灯ろう七夕まつりは元禄時代から行われているといわれていて、地域の方々の心の拠り所となっている。夕刻に山車のロウソクが灯され幻想的な雰囲気包まれます。

震災の年には開催を見送ることも考えられたが、先祖をお迎えするという星まつりとしての意味合いや、震災で傷ついた方々へ元気づける意味も込めて各団体や大学などの支援を受けて開催し、その姿は多くの方々に勇気づけました。現在もそのつながりは途絶えずにいます。当時かかわった方や大学生などにとってもこのお祭りだけは盛町へ必ず帰ってくるというほど特別な存在となっています。短い夏を惜しむように老若男女問わず威勢の良い掛け声で祭りを盛り上げます。

小さいころの夢

私は学生のころまでフランスの小さな町に生まれ育ちました。
隣には畑があるような田舎町です。
実は、私は13歳頃からアルプスに住みたいと思っていたのです。
自然の中で暮らすことが夢でした…ずっとっていましたね。
そんなことを忘れていたわけではなかったのですが、夢とは全く違う
大都会で10年も暮らしていたのです。
今振り返ると心の中で違和感を覚えていたと思います。
毎日しっかりとお化粧をする。
満員の電車に乗る。
みんなと同じような服装と行動。
昔から自然が大好きで、やんちゃに元気に遊んでいた私が、
都会の生活に違和感を覚えることは当たり前で、東京の暮
らしと大船渡でのわたしを比較するようになったのです。
大船渡の自然や人がそういったことを思い出させてくれました。



三陸町越喜来の海
美しい景観が広がる南三陸の海。
海水は透き通り比較的穏やかな浜が広
がります。リアス式の荒々しい勇壮な景
観ももちろんありますが、一目見て見せ
られるそんな海岸が広がっています。
アクティビティも豊富で、サップやカヤ
ックのほか、大船渡の海はダイビングの
スポットとしても知る人ぞ知る美しい
場所ですよ♪

大船渡に住むために



首崎灯台にて
リアス式海岸の雄大な景色を楽しみ
たいならトレッキングしながらの展
望台や灯台へどうぞ♪
真っ青な海と水平線と青空、トリプ
ルブルーの美しいコントラスト。
少し汗ばんだ体にそよぐ潮風
ぜひ体感してほしいですね。

ついに、大船渡で住みたいと心に決め、
すぐに取り組んだことは、「永住権」を取得することでした。
日本の国籍をもたない方々が日本への移住・定住を考えた際にでて
くる第一段階の壁ですね。
永住権は「10年以上日本に暮らし」「税金を滞りなく支払っている」も
ので、そのものの「身元を保証する保証人が必要」なのですが、すべて
クリアしていても1回目の申請はなぜか通りませんでした。
心が弱くなったけれど安心して大船渡で暮らすために再度申請し、よ
うや々と取得することができました。
申請が通ったことはまずハガキで連絡がありました。前回のこともあ
りその時点では全く信じられなかったですね。入国管理局に行きビザ
を実際に手にしてからようやく「取れた！」と理解しました。
うれしくて。ほっとして。何時間も泣きました。その状態で仕事に戻る
ことができず困るほど笑
永住権を取得してからは、仕事を探しました。
ちょうど「大船渡市地域おこし協力隊」の募集があり応募したところ、
平成31年5月に採用となりました。
わたしの担当は地域の魅力をみつけて発信すること。
大船渡は魅力いっぱい。よそのものだから気づくこと。
みなさんに知ってもらいたいですね。

住むところ

せっかく大船渡に住むなら「三陸町」と思いました。
海もみえて山もある地域。
大船渡にきてからの私の活動拠点は街中の「盛町」
でした。
もちろん私の大好きな人たちがたくさんいる地域。
でもせっかくなら自然豊かな「三陸町」に住みたいと
思いました。 同じ市内ですしね笑



秋の夏虫山
紅葉が見事なスポット
秋の散策も楽しい
自然豊かな地域です。



人とのつながりが
幸せを呼んでくるまち
私のお気に入りの家も
地域の方からの紹介でした。

私の場合、やはり「人とのつながり」で家を見つけることができました。

地域の方が紹介してくれたものです。

私の条件は「海が見えること」でしたが、その条件をしっかりと満たす最高の家を購入し、現在「海」と「山」を眺めながら快適に暮らしています。

大船渡に暮らして

大船渡で暮らす前と、後。
不思議なことに気持ちは全く変わらないですね。
「大船渡が大好き」
「毎日が楽しい」
毎日快適な暮らし
以前からあった体の不調がなくなったことには
驚きました。
仲間も増えました。
自分にとって心地のいい場所。自分で考えて自分で選
択する生活。
忙しくても以前とは全く違い心が落ち着いています。



蕎麦づくり体験
地域の方々との交流が楽しい
声に出していってみると、人や物につなが
っていきます。
無理せず自然のままで暮らしてみてね。

大船渡の文化

～おもてなし、おすそわけ～



ある日のおすそわけ
新鮮なホヤ

みなさん大船渡で暮らしてみるとわかると思いますが、みなさん「放っておかない」のです。
いつも気遣うことばとあいさつを交わし、体の心配までしてくれる家族のような付き合いです。
ある日玄関先には大量の海産物、またある時には大量のお野菜が届けられています。
もちろんこれは頼んだものでもなんでもない、「おすそわけ」
このおすそわけはまた別の誰かに「おすそわけ」され、新たな交流や循環を生み、また自分に返ってきます。
どんどん親しくなって、どんどん仲良くなっていくツールですね。

これからのわたし

先日フランスから両親を招待しました。
大船渡のみなさんを紹介して、大船渡を案内して。
ゆっくりと我が家に泊まってもらって。
満喫してくれたと思います。
いまは大船渡市地域おこし協力隊の仕事をこなしながら、新たな観光資源をと日々奮闘しています。
故郷フランスのワインと大船渡の新鮮な魚介類とのコラボや、地元産の素晴らしいものを使用した「何か」など大船渡の素敵なスポットだけではなく、そこに地元のものやアクティビティを加えてより楽しんでもらえるようにさまざまな仕掛けを考えています。
今後の夢もできました。
ゲストハウスをひらいて大船渡をガイドしたいと考えています。外国からのお客様も視野にいれて発信していきたいですね。



地元の漁師さんといろんな仕掛けを考えています。
お手伝いをしたり、アドバイスしたりされたり
大船渡の自然豊かな景色と「人」
美味しい「食」をたくさんの方々に
してもらいたいですね。



冬の夏虫山

雪も比較的少ない大船渡地域は
アクティブに活動できます。
美味しい食材も多く、一年を通して
楽しめる場所です。
楽しめる場所だと思います。

移住を考えている方へ

自然がすきで、田舎がすきなら大丈夫。ここ大船渡はそんな方には最高の場所ですよ。

コミュニティの場に参加しているうちに顔を覚えてもらい、受け入れてくれるようになります。

草取り、まちの会議など参加しているうちにきっと快適な暮らしが待っています。

田舎での暮らし、特に大船渡での暮らしには「人とのかわり」が重要になります。人が人をよび仲間が増えていく感じですね。

もし田舎暮らしが好きならぜひ大船渡へいらしてくださいね。